

平成24年度 自己評価書

学校名	和歌山市立大新小学校
校長氏名	北原 博 男
作成日	平成25年 2月22日

1 教育目標

豊かな情操とまろやかな英知を育み、心豊かにたくましく生きる子どもを育てる

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	保護者や地域、関連機関との協力・連携を深め、特色ある充実した教育活動を推進する。	感謝する気持ちやねばり強くがんばる気持ちを培い、他人を思いやる優しい心を育てる。	子どもの学びや納得を大切にしたい授業づくりを推進する。

取組の状況【D】	・学校便りや学年便りを月1回発行し、学校での取り組みの様子を保護者に伝えた。また、学校便りを大新支所に掲示して地域の方にも読んでもらった。・1, 2年生や交通少年団と大新クラブ(老人クラブ)との交流を年間を通して行った。また、感謝の集いを行い、お世話になっている方々に感謝の意を伝えた。・大新	・全校縦割りなかよし活動を通して、学年を越えてなかのよい集団が出来た。6年生はリーダーとして自覚が育ち、児童全体に仲間を思いやる優しい心が育っている。・1, 2学期のマラソンや3学期の長縄を通して、健康な体をつくとともに、がんばる気持ちや協力する気持ちが育ってきている。・青少年赤十字モデル校とし	・5つの算数研究授業に際して、事前協議、授業参観、研究協議を全教員で行うことにより、子どもの思考を大切にしたい授業のあり方についての共通理解ができた。・「小さな問題」で話し合うときにも、事例を絞って焦点化した話し合いができた。・個人差が大きい子ども達に対して、補充の学習の時間を設けるなど工夫して
評価結果	・地域の方とのふれあいの活動は好評であり、地域の方にとっての楽しみになっている。・学校の花壇の整備やプランターへの花植えなど、地域のボランティアの方にしていただき、ありがたかった。・「学校の教育活動や子どもの様子をわかりやすく伝えている」が88%、「学校と家庭がそれぞれの役割を果たし、連携協	・「学校が楽しいか」という子どものアンケート結果も保護者のアンケート結果も90%以上あり、おおむね満足できていると考える。・「全校縦割りなかよし活動」は、本校の中心的な取り組みであり成果も上がっている。・来年度も引き続き行っていく。・「友達となかよくしている」という子どものアンケート結果は9	・「子どもが学習内容がわかり、基礎的な学力が身についている」という保護者アンケートが、93%とおおむね満足だった。反面、「毎日の勉強がわかる」という子どものアンケート結果が、84%と満足度が少し低くなっている。個人差に応じた指導をよりきめ細かく工夫することが必要である。・基礎的な学力をつけるため
改善方法【A】 次年度に向けての	・大新小学校の取り組みを理解し協力していただけるよう、今後とも学校での取り組みを情報発信していきたい。・地域の方々との交流を大切にするとともに、学習発表の機会を工夫していきたい。	・縦割りのなかよし活動は、来年度も引き続き行う。・道徳の授業研究についても、来年度も引き続き行う。・いろんな機会を捉え、学校での取り組みを保護者に伝え協力していただけるように努める。	・遅刻や忘れ物が多い子など、生活面や学習面で気になる子どもに対して、生活習慣をよくするため保護者との連携を深める。・算数の研究授業については、話し合いの時間を充実させるための「指導者のしかけ」に焦点を当て研究を深めていきたい。

3 その他の課題

- ・本校には、母親が外国籍という方が十数名いる。そのため、日本語の理解が不十分な子ども何名かいる。関係機関と連携しながら適切に対応していく必要がある。
- ・また、家庭的に気になる子どもに対しても、関係機関と連携を密にして対応しなければならない。